



THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

# 大学院修士全科生 2027年度入学希望者ガイダンス

## 情報学プログラム

<https://www.ouj.ac.jp/gakuin/infomatics/>



# 情報学の定義

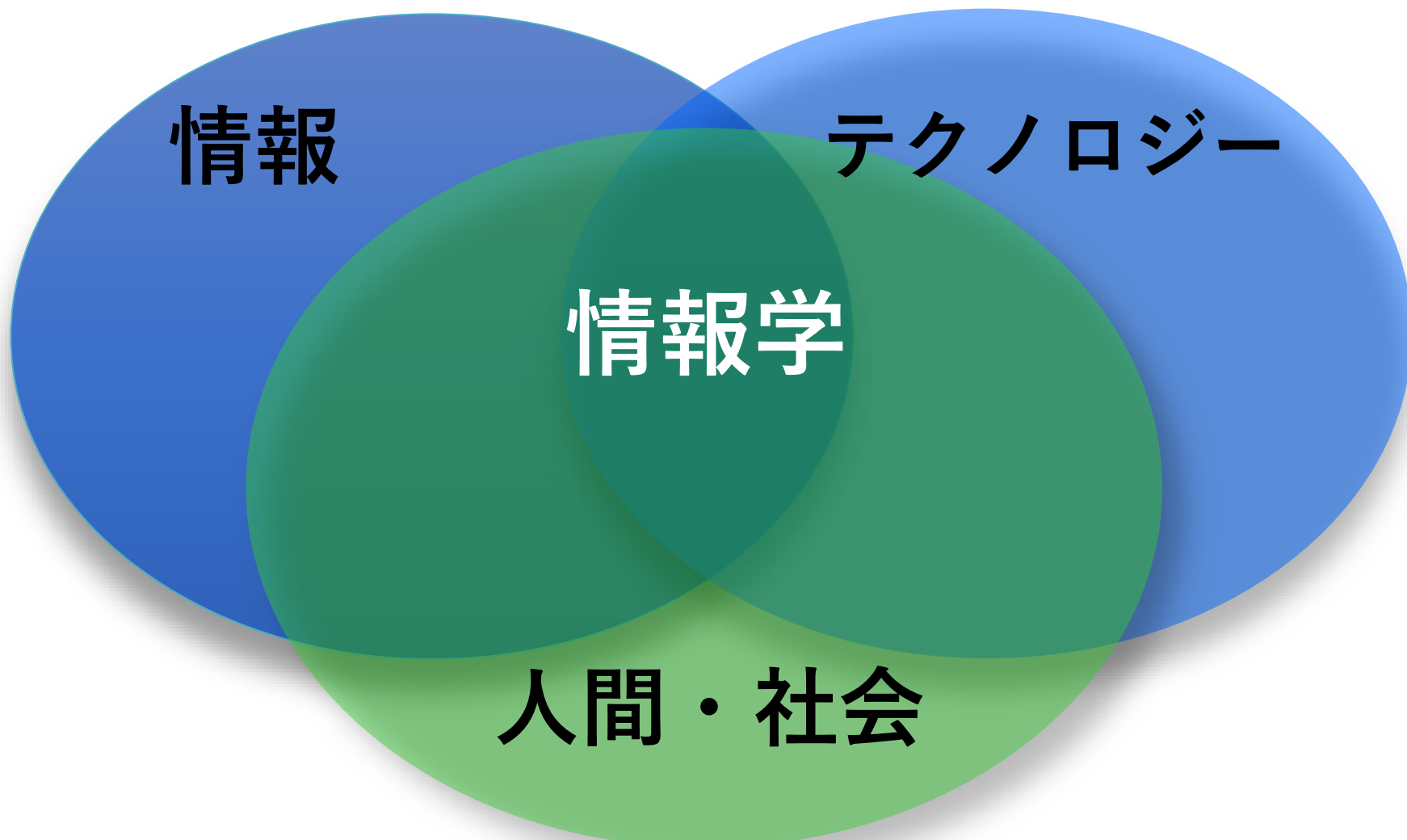
情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問  
(日本学術会議参照基準)

## 【放送大学 情報学プログラム（修士）で目指すこと】

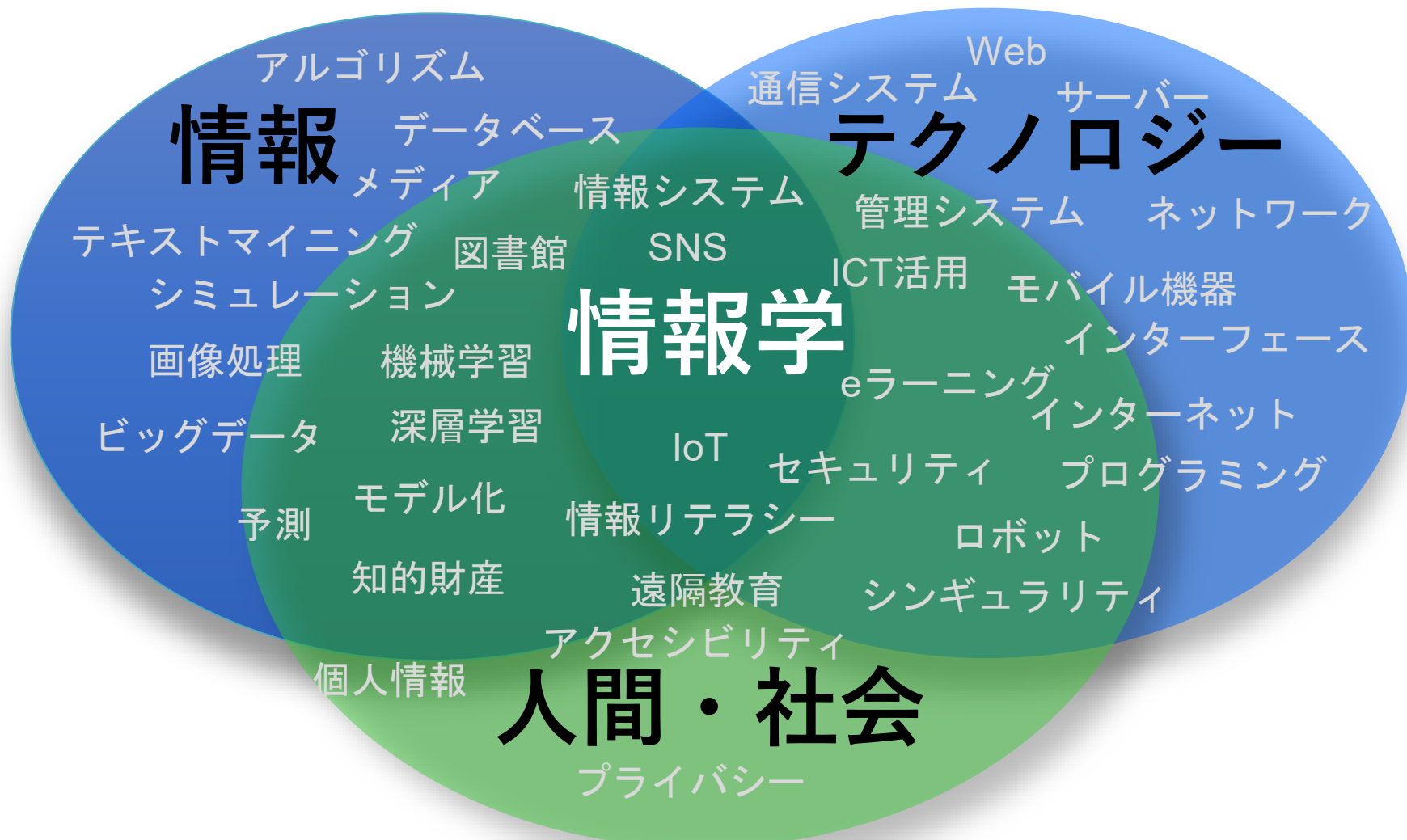
「情報」の概念を明確化し、理論体系にそってその性質や特徴を学ぶとともに、実際の情報技術がどのような場面で適用され、応用されているかを学ぶことができます。このことによって、情報自体についての理解が深まり、「情報」が、人間・社会・環境といったいろいろな分野でどのように応用され影響を与えているかについて、広い視点で考えることができるようになります。

情報学プログラムでは、既存の様々な理論や手法を身につけた上で、「情報」に関する基本的認識に基づいて、私たちを取り巻く社会における諸問題を解決するために研究を実践的に遂行できる人材の養成を目指します。

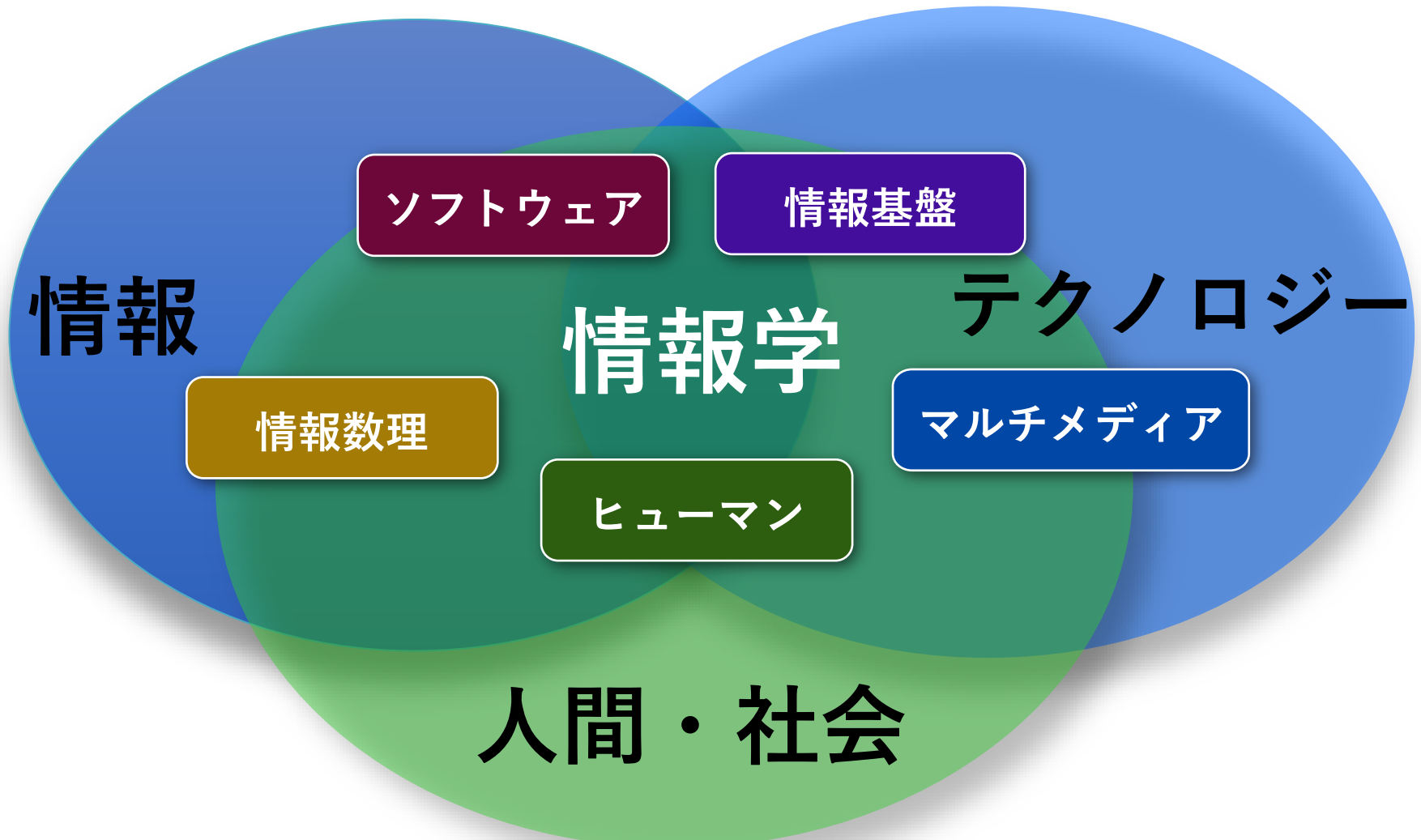
# 情報学を取り巻く世界



# 情報学を取り巻く世界



# 情報学プログラムの5領域

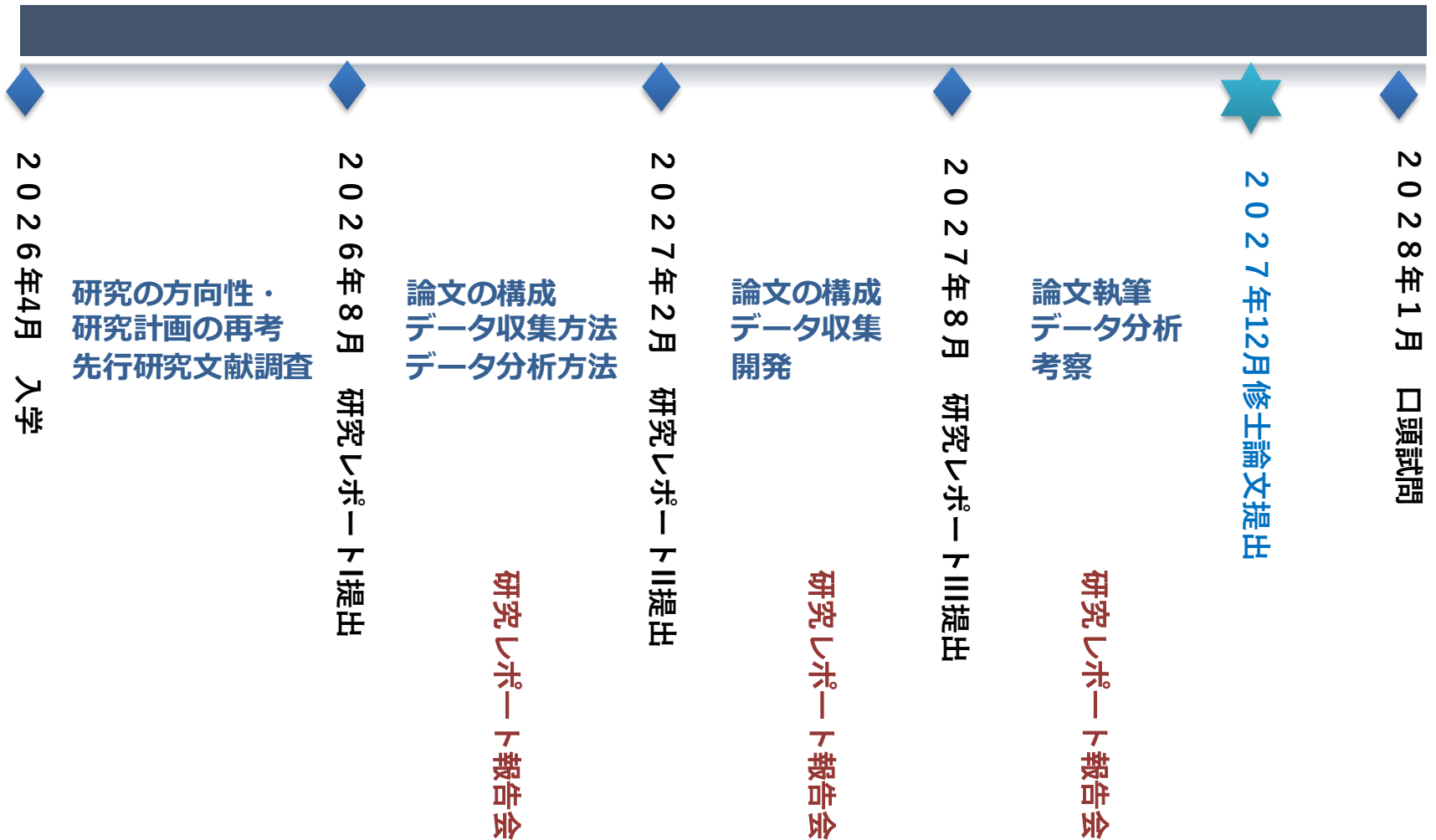


# 各領域と所属する教員

情報数理	数理モデルによる対象の分析、予測、最適化	秋光 大西	浅井 加藤
ソフトウェア	ソフトウェアの構造、原理、開発法	辰己 葉田	中谷
マルチメディア	コンピュータの外界やユーザとの接点	近藤 伏見	仁科 柳沼
情報基盤	情報通信の基盤技術	芝崎 辻	鈴木
ヒューマン	情報機器やシステムと人間及び社会との関わり	青木 平岡	中川

※ 今後、指導担当可能な教員が変動する可能性がありますので必ず願書の資料等でご確認ください。

# 修士論文研究プロセス



# 修士課程入学を考えるにあたって

## ■ 科目履修と修士論文研究の時間がどれだけ割けるのかを考える



入学前に科目履修生になって必要な科目を履修してしまう  
→ 入学後は修士論文研究に専念できる

## ■ 修士論文研究のための環境づくりを考える



職場や家族の理解をあらかじめ得ておく

職場をフィールドに考える場合は、協力が得られるような体制を作っておく

# 研究計画を作成するにあたって

## ■ 自分が考えているテーマについてまず先行研究を調べてみる

- ・ テーマについてどれだけの研究がなされてきたのか
- ・ 何がわかっているのか
- ・ 何が課題となっているのか

# 研究論文（先行研究）を読む

## ■ 研究論文の書き方に慣れ親しむ

- どのような研究方法（データ収集・分析方法）がとられているのか
- どのように研究対象を絞り込んでいるのか
- 完全に理解できなくて構わない
- テーマの粒度を把握する

## ■ 自身の研究のヒントを得る

- 「〇〇にも適用できるのでは？」
- 「〇〇業務のボトルネックは××で、この技術を適用すれば△△%の効率化」
- 「〇〇へ適用できるようにするためには、△△が必要なので、この問題を解決」
- 「必要データを削減できないか？」

# 研究テーマNG事例 1

## ■ NG研究テーマ：「○○を勉強したい」

- 漠然としすぎている
- 研究目的や方法が不明確

## ■ 改善例：

- 「○○分野における△△の影響を調査する」
- 「○○の効果的な学習方法の検討」
- 「オンライン学習環境における学生のモチベーションに関する研究」

# 研究テーマNG事例 2

## ■ NG研究テーマ：「わが社の業務を改善する」

- 範囲が広く、具体性に欠ける
- 汎用性がわかりにくい

## ■ 改善例:

- 「〇〇業種の製品出荷プロセスの効率化」
- 「顧客サービス部門のチャットボット機能の開発」
- 「業務管理システムの現状分析と改善提案」

# 研究テーマNG事例 3

## ■ NG研究テーマ：「人工知能の応用に関する研究」

- ・ テーマが広すぎる
- ・ 具体的な研究課題が不明確

## ■ 改善例：

- ・ 「医療診断における人工知能アルゴリズムの精度向上に関する研究」
- ・ 「人工知能を用いた自動運転車の障害物検知技術の開発」
- ・ 「自然言語処理技術を用いたカスタマーサポートチャットボットの効果分析」

# 研究テーマ設定のポイント

## ■ 研究対象や方法を具体的に示す

- 文献レビューのみや業務報告書ではダメ
- 研究目的、期待される成果を明確にする
- テーマを限定し、1年半で達成可能なものにする

## ■ 新規性：

- 修士入学前の時点ではあまり考えなくてよい
- 指導を受けて明確化していく



# Q & A

Q. 「自然現象のモデル化」、「情報通信が社会に与える影響」など、他プログラムと重なるテーマはどちらのプログラムに出願すべきでしょうか？

A. 一般論ですが、「○○と情報」の○○と情報のどちらに比重をおくかによります。また、指導教員の専門、研究テーマとの近さも選択の要因になるでしょう。

**Q.** 私のテーマは複数の領域にまたがり、1つの領域に絞ることができません。どうすればいいですか？

**A.** 5つの領域は情報学の方向性を示していますが、排他的なものではありません。研究テーマが複数の領域にまたがること自体は問題ありません。

## Q. 研究指導はどのように行うのですか？

**A.** 対面やWeb会議システムで実施します。遠方の学生に対面での参加を求めることはありません。また、研究の経過を報告するときは、プレゼンテーション用のアプリケーションを使って発表します。

**Q. プログラミングスキルは必要ですか？**

**A. プログラミングスキルが必要か否かは  
研究内容によります。**

**Q. 事前に身につけておくべきスキルはありますか？**

**A. 修士論文の作成期間は実質1年半です。**  
必要なスキルを身につけ、研究を行うには非常に短い期間となっています。情報コースの学部科目や情報学プログラムの大学院科目などを履修し事前にしっかりとした準備をしておくことをお勧めします。